

二〇二六年四月二五日

山頂の近づくほどに躑躅濃し
双蝶の付きつ離れつ畑を舞ふ
鬪病の窓に満開大躑躅
日をはねて花さじきなす紫雲英
雨晴れて今日を逃さず草を引く

花茗荷
やよい
そうけい
伸枝
うつき

二〇二六年四月二四日

疎に密に樹間に三葉躑躅燃ゆ
絞りたてミルクに憩ふ牧若葉
鴨の矢の飛び交ひやまぬ椿山
落ち合ひてこれより大河鳥雲に
骨休めせよと神慮か菜種梅雨
風生るメタセコイヤの若葉より
舍利塔の立つ山腹に遅桜
教会に水仕の音や春ゆふべ

澄子
山椒
よし女
風民
せいじ
あひる
うつき
むべ

二〇二六年四月二三日

鯉幟 餓鬼 大将は女の子
杣道を休みやすみや著莪の花
伽羅路をとると煮上ぐ雨ひと日
青葉風窓全開すケーブルカー
雉の声静寂にひびく深山かな
ずぶ濡れとなりし陶狸や菜種梅雨

伸枝
澄子
もとこ
なつき
澄子
あひる

二〇二六年四月二二日

葉桜はレース模様影を編み
鯉のぼり飯場はいまし昼餉どき
西空の青を奪ひて黄砂来る

やよい
康子
むべ

源氏名を肯ひ愛づる花菖蒲
猫の子と吾子の寝転ぶうまごやし
緑立つ庭の箒目乱れなし
春眠の母寧らけき眠り姫
城濠へ枝打ち重ね若緑

よし女
ふさこ
風民
もとこ
愛正

二〇二六年四月二一日

毛虫いま必死のPATCH横断中
万緑を抜きん出て立つクレーンかな
里うらら長啼く牛の声もまた

こすもす
康子
千鶴

二〇二六年四月二〇日

湧くごとく木香薔薇の盛りかな
風に頭を振りてたんぽぽ絮飛ばす
古民家を抱きておらが山笑ふ
新緑を淵に沈めて城の池
フエンスより雪崩をなせる木香薔薇

むべ
ぼんこ
せつ子
やよい
みきえ

二〇二六年四月一九日

連山を押し上げてをる花の雲
春山を行く足取りのいや軽し
藤の花虻の頭突きに零れけり
お囃子のごと賑やかし揚雲雀
花は葉に帰天の友を悼みけり
園巡る先へ先へと紋白蝶

せいじ
勉聖
よし女
せいじ
せつ子
やよい

毎日句会みのる選・二〇二六年四月二七日